

## 図書室の本棚から－ 新着図書を中心に (2006年3 - 4月)

### 「家庭 愛といのちのきずな」教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的勧告 教皇庁文書

ヨハネ・パウロ二世 著 ペトロ文庫

(K 625)

結婚と家庭のもつかけがえのない価値と深い意味について、その真理を明らかにするのは信仰です。……今日多様な困難にさらされている家庭について、その本質と価値に光を当て、キリスト者の家庭の役割と使命を示す使徒的勧告。

### 「子どもたちへの手紙」ヨハネ・パウロ二世著 カトリック中央協議会 (E 427)

－わたしたちは神さまの子どもです。この福音を喜びましょう－

子どもたちを愛してやまなかった前教皇ヨハネ・パウロ2世。そのパパさまが 神さまの声に耳をかたむけることの大切さ、クリスマスや、幼いころのイエスさまのお話、などやさしいことばで語りかけてくださる。

### 「ヨハネ・パウロ二世からベネディクト十六世へ」逝去と選出の文書と記録

カトリック中央協議会 編著 (E 430)

前教皇遺言や新教皇就任ミサ説教等の「文書」、前教皇逝去までの経過、教皇選挙、新教皇選出までが時間を追って記された「記録」、前・新教皇の略歴や逝去・就任に際しての日本カトリック司教協議会会長のメッセージ等の「資料」、以上三部で構成。

### 「ベネディクト16世黙想と祈りによる十字架の道行」

貝原敬子 訳 女子パウロ (E 436)

本書は、前教皇ヨハネ・パウロ2世逝去のわずか10日ほど前、2005年の聖金曜日にラッツィンガー枢機卿(現教皇ベネディクト16世)が、ローマのコロセウムでたくさんの信者たちとともに、キリストの死と復活を黙想されたものです。

### 「新ローマ教皇 わが信仰の歩み ヨゼフ・ラッツィンガー ベネディクト16世」

ヨゼフ・ラッツィンガー 著 春秋社 (E 439)

新しいローマ教皇ベネディクト16世の貴重な自伝。戦争と敗戦の混乱に彩られた少年時代の記憶から、司祭となり、大学で神学を教え、やがて大司教、枢機卿に任じられていくその人生の歩み。信仰は人間によって決められるのか。教会の意義は何か。キリスト教と他の宗教の関係はどうあるべきか。新教皇のマニフェストともいえる本書を、教皇の大学教授時代の愛弟子が翻訳。訳者が身近に接した新教皇の人柄と思いで付されている。

### 「詩編の美術館」 訳 円治めぐみ 日本基督教団 (P 82)

「詩編」のテーマに従って選ばれた言葉に、ジョット、レンブラント、ミケランジェロなどの名画を配した信仰と美術の調和の世界。賛美・祝賀・嘆願・黙想の主題ごとに32篇の詩編と33点の名画を収録。

### 「祈りの美術館」 日本基督教団 (P 83)

「祈り」をテーマに従って選ばれた言葉に、名画を配した信仰と美術の調和の世界。アッシジのフランチェスコら 50 篇の祈りと美しい 54 点の名画収録。

**世界でいちばん美しい物語 (宇宙と生命と人類の誕生)** ユベール・リーヴス 他著  
ちくま文庫 (K 628)

宇宙の誕生から地球の誕生、生命の出現、人類への進化のドラマを最新の科学研究の成果から易しく解説。150 億年を超えて続く「進化」という壮大なドラマを、宇宙物理学・分子生物学・古生物学の権威が語る。宇宙と地球、生命、そして人類の始まりの物語。世界 15 カ国で読まれているフランスのベストセラー。

**「宇宙の不思議」** 佐治晴夫 著 PHP 文庫 (K 624)

宇宙の不思議、私たちと宇宙の深いつながりについて、現代の科学に立って平易に語った文庫本。宮沢賢治や、金子みすゞ、「星の王子様」、アウグスティヌス等々のことばが引用されるなど、心と感性に響くユニークな宇宙論。著者は「ゆらぎ理論」の第一人者。

**「共に生きる道」** ホスピスチャプレン物語 沼野尚美 著 佼成出版社 (W 61)

著者が長年のホスピスチャプレンの活動の中で学んだ生と死のあり方が、多くの事例を挙げながら具体的に示されている。医療関係の人々のみならず、すべての人々に生き方を示唆してくれる良書である。

**「癒されて旅立ちたい」** 沼野尚美 著 佼成出版 (W - 60)

ホスピスのチャプレンとして十数年、著者が病院で体験したエピソードを数多く紹介しながら自分の心が他者の心と向き合って生きる事について書かれている。宗教カラーを強く出さないように配慮され、誰にでも読みやすい。

**「イエスを知る 58 の出来事」** ロイス・ロック 著 ドンボスコ (J 553)

シンプルな表現と共に学術的な深い洞察も見られる文章 注意深く研究されたイラストや豊富な写真によってイエスの全生涯をたどる。青少年には勿論、新約聖書を知りたい大人にもお勧めです。

**「[ぬくぬく]をもちよって - わたしたちの教会」** 比企潔 著

オリエンズ宗教研究所 (E 425)

教会ってなんだろう？ と、いつも考えている神父さんのもとに現われた一匹の不思議な子ネコ。その子ネコとの関わりを通して、教会の使命や役割が明らかになっていく。「教会ってもっとぬくぬくしたところじゃないの？」いつまでも心に残る子どもとおとなのための小さな物語。本文ルビ付きイラストカラー刷り

**「エバからマリアまで」- 聖書の歴史を担った女性たち** 一色義子 著

キリスト新聞社 (E 426)

21 世紀の今という現代に生きるイエスに出会ったキリスト教の女性たちが旧約聖書を読んだなら、という思いがこの小さな本になりました。21 世紀が始まってすぐ、世界が戦争の脅威にさらされ、理解し合い、愛し合うことの難しさを示しています。本書は、大学・学校でキリスト教学の参考の副読本に、また聖書の学びの参考に活用していただければ幸いです。(一色義子 抜粋)

**「深い智慧の話」** マーガレット・シルフ 編 女子パウロ会 (L 1111)

伝説・寓話・物語。それは時空を超え、今を生きる人々に贈られるまことの知恵と光…。世界の国々に伝えられてきた伝説・寓話・物語などを再話・編集した1冊。短い話の中に、心の目を開いてくれる知恵が宿っている。大切なひとに読んでかかせてあげたくなる知恵にあふれた世界中のお話の本です。

**芸術新潮 2006年1月号 シチリアの秘密** 新潮社 編 新潮社 (P 84)

**「長崎・天草の教会と巡礼地完全ガイド」** 冊子 長崎遊学 2

長崎大司教区教区監修 長崎文献社 (P-78)

長崎、平戸、佐世保、上・下五島、天草、島原の教会と巡礼地をカラー写真入りで懇切にガイドする。教会分布マップや、ミサの時間、年表などの付録がつくなど、巡礼に必携の魅力的なハンドブックとなっている。

**「天草の伝承キリシタンとオラシヨ」 その変容と消滅 / 石に残された信仰の証**

濱崎 献 著 サンタマリア館 (E 435)

文化二年の白状書のオラシヨと明治以後に採集されたオラシヨを中心に、伝承キリシタンの変容と消滅をオラシヨと信仰生活から見た。天草のキリシタンの歴史の中で、「伝承キリシタン」については分散したオラシヨをまとめた。第2部の「信仰の証」(石の証言)では一見仏教の墓碑や地蔵観音と見えても、そこには伝承キリシタンの信仰の証が隠されている。(あとがきより抜粋)

**まず微笑** 遠藤周作、三浦朱門、曾野綾子 共著 PHP文庫 (K-626)

三浦朱門、曾野綾子、遠藤周作三人のエッセイ集。三人とも視点がおもしろく、やさしさにあふれたエッセイ集。

**庭仕事の愉しみ** ヘルマン・ヘッセ 著 草思社 (L 1112)

ヘッセの遺稿を編んだエッセイ集。庭仕事を通じて自然と人生の真髄を考え、草花や樹木に生命の秘密を感得する深い味わいの文章と詩。自筆のカラー水彩画多数挿入

**「ビルマ軍政下に生きる人々」 - 写真集** 宇多有三 アジア太平洋人権情報センター (P 81)

神戸市在住のフォトジャーナリスト、宇多有三さんの13年間に渉るミャンマー(ビルマ)の取材の集大成の写真集。軍事政権下の都会や田舎で暮らす人々、僧侶や学生など各階層の人々の姿を活写している。なかなか知る機会のない現代のミャンマーの人々の暮らしぶりを知る絶好の機会になる事でしょう。